

LIFE WITH GREEN

HANSHIN ENGEI *Story*

vol.09

[contents.01] 人が過ごして、風景になる。

東京支店 造園工事部 高木 陸さん / 施設管理部 早川 理佐さん

[contents.02] 神戸布引ハーブ園に、新たなくつろぎの景色が誕生

[contents.03] 現場だより。-史跡池上曽根遺跡の田植えに参加してきました！-



今日もこの街のどこかで、
阪神園芸の仕事が芽吹いている

LIFE WITH GREEN

HANSHIN ENGEI *Story*

Story 9.

人が過ごして、風景になる。

東京支店 造園工事部 / 施設管理部

絶景の、その先にある仕事

伊豆パノラマパークの山頂に立つと、目の前には富士山と駿河湾が広がる。風が抜ける。空が近い。時間の流れまで、少しゆるやかに感じられる場所だ。

この風景を、もっと心地よく、もっと魅力的な場所へ。そんな思いから、阪神園芸によるプロジェクトが動き始めた。

きっかけは、2022年。パーク全体のリニューアルにあたり、植栽計画の策定から改修、その後の運用まで含めた相談が阪神園芸へ寄せられたという。関西のイメージが強い阪神園芸だが、現在は関東エリアをはじめ、全国各地で“人が過ごす空間”づくりに携わっている。今回の伊豆パノラマパークも、そのひとつだ。

レストラン棟やロープウェイ入口の

ある「山麓エリア」では、山頂への期待感が高まるような、少し特別なリゾート感を意識。一方、富士山と駿河湾を一望できる「山頂エリア」では、“景色が主役になること”を大切にしながら植栽計画が進められた。

季節ごとにテーマカラーを設けつつも、花を主張しすぎることはしない。あくまで景色に寄り添い、その季節らしさを自然に感じられること。絶景を引き立てながら、そこに訪れる人の時間まで心地よくなるような空間が目指された。

完成した風景だけを見ると、もともとそこにあったように感じられるかもしれない。けれど、その“自然さ”の裏側には、多くの工夫と試行錯誤があった。





植栽工事の際は、モノレールで何度も
麓と頂上を行き来し、資材を運んだ。
日常管理作業でも使用している。

この場所らしさを、守りながら

この工事に携わったのが、造園工事部の高木陸さんだ。「人が実際に使っている風景を見ると、“やってよかった”と思うんです」。そう話す彼にとって、今回の現場は特に印象深いものだったという。

伊豆パノラマパークの魅力は、人工的につくられた空間ではなく、山の自然と景色そのものにある。だからこそ整備をしながらも、“もともとそこにあった風景”に見えることが何より大切だった。「既存の景色となじませることを意識していました」。

ただ、その環境は想像以上に過酷だった。山頂エリアへの資材運搬にはモノレールを使用。中高木は2〜3本ずつしか運べず、大きな木になると1回で1本しか運べないことも。往復には約45分。少しずつ運び上げていくしかなかった。

さらに悩まされたのが、山頂特有の天候だ。「施工期間中、雨が降らなかった日は一日もなかったです(笑)」。風が強い日はロープウェイが止まり、途中で全員下山しなければならないこともあった。雨でウッドデッキを汚さないよう養生をしながら、足場の悪い山の斜面で作業を進める日々。それでも、高木さんたちが優先したのは“効率”ではなく、“この場所らしさ”だった。

完成後、多くの人が景色を楽しみ、写真を撮り、それぞれの時間を過ごしている。その風景を見た瞬間、「ようやくこの場所が完成した気がしました」と高木さんは振り返る。

空間は、整備しただけでは完成しない。人が訪れ、時間が流れ、思い思いに過ごして、はじめて“風景”になっていくのだ。



素晴らしい絶景にカメラを向ける人々



造園工事部 高木 陸さん





晴天で風のない日は、水盤に逆さ富士が映ることも



富士山をモチーフにした植栽も、冬季は白い植物で雪化粧風に



施設管理部 早川 理佐さん

変わり続ける景色に寄り添う

工事が完了した後も、季節は巡り、風が吹き、雨が降るたびに、植物も景色も少しずつ表情を変えていく。その変化に寄り添いながら、空間を整え続けるのが維持管理の仕事だ。

伊豆パノラマパークでは、年に3回ほど季節に合わせた植栽の入れ替えを行っている。ただ、山頂という環境は想像以上に厳しい。

「暑い時期は花がもたなかったり、寒い時期は凍ってしまったりするので、植物選びは本当に難しいです」。そう話すのは、リニューアル工事の頃からこの場所に関わってきた、施設管理部の早川理佐さん。

風が強い場所では、あえて花を植えず、周囲の景色を活かす判断をすることもあるという。富士山を望む人気スポットだけでなく、散策路沿いの小さな植栽にも目を配り、現地の植栽

管理担当者と意見交換しながら、そこに合った景色を整えていく。

「通りがかった方に『ご苦労さま』って声をかけてもらえると嬉しいですね」と早川さん。

高木さんが“つくる側”なら、早川さんは“育てる側”。役割は違っても、二人に共通していたのは、「人が過ごす場所を支えている」という感覚だ。

高層ビルが立ち並ぶ都市の中でも、人は自然と“みどり”のある場所へ集まっていく。木陰で休む人、ベンチで会話をする人、花を眺める人。そんな風景のそばには、必ず誰かの手入れがある。「やっぱり外には、楽しいと思える魅力がある」そう微笑む早川さん。完成して終わりではなく、その後も季節とともに変化する景色に寄り添い続けること。人が過ぎて、風景になる。阪神園芸は、その風景を支えている。

PROJECT DATA

- 施設 / 神戸布引ハーブ園
- 内容 / 既存デッキ改修+新エリア整備
- 阪神園芸担当 / 施工:造園工事部・運営管理:FM事業部
- 完成 / 2026年春



HANSHIN ENGEI STORY 9 [contents.02]

阪神園芸 TOPiCS

風景をつくる、その裏側。
神戸布引ハーブ園新ビュースポット誕生

森に浮かぶデッキと水盤 神戸布引ハーブ園に、新たなくつろぎの景色が誕生。

森に浮かぶデッキと、静かに空を映す水盤。
阪神園芸FM事業部が運営管理を担う「神戸布引ハーブ園」の「ザ・ヴェランダ神戸」が
大規模改修し新たなビュースポットとしてリニューアルしました。

木々の緑に包まれたガーデンテラスで、風を感じ、景色を眺め、思い思いに過ごすひととき。
森の中にそっとひらかれたこの“大人のくつろぎ空間”の施工を担ったのが、阪神園芸 造園工事部です。
美しい景色の裏側には、意匠性と安全性を両立させるための、細やかな工夫と確かな技術がありました。

お話を聞いた人



阪神園芸 造園工事部
原田 壮一郎さん

中途入社9年目。インテリア販売の仕事を経て阪神園芸へ。造園・植栽工事、公園工事など幅広い現場経験を持つ造園工事部の中核メンバー。細部まで妥協せず、意匠と安全性の両立を追求する職人気質。

“見せない”ことに、こだわった。

森の中に浮かぶデッキと、水面が静かに景色を映す水盤。
そこにあるのは、ただ美しいだけではない、
“余計なものが見えない”心地よさです。
今回の工事で求められたのは、森の景色に調和する高い意匠性。
そして、長く安心して使い続けられる安全性。その両立でした。
ボルトの向き、手すりの太さ、設備や配線の見せ方まで。
「できるだけ何も見せない」というこだわりを、
造園工事部は細部にまで積み重ねていきました。
美しい景色の裏側には、見えない工夫と技術があります。



3つのこだわりPOINT

POINT

01

山の上だからこそ、
搬入計画から。

「今回の現場は、まず搬入計画がポイントでした」と話す原田さん。現場は山の上にあり、資材は温室側からモノレールで搬送。長い柱そのままでは運べないため、分割位置や接合方法まで事前に計画しながら進めたといいます。「“どうつくるか”の前に、“どう運ぶか”を考える必要がありました」

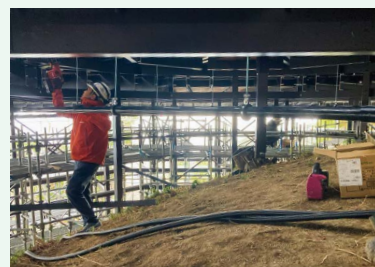


POINT

02

細部ほど、何度も考える。

「今回は見た目にかなりこだわった現場でした」。設計側が大切にする意匠イメージを形にしながら、安全性や耐久性も成立させる。造園工事部として、その両立を意識しながら細かな調整を重ねていったといいます。柱の太さや接合方法、ボルトの向きなど、見えない部分ほど丁寧に検討を進めました。



POINT

03

ボルトすら、見せたくない。

「とにかく“余計なものを見せない”という考え方でした」。ボルトや設備など、通常は見えてしまうものも、景色の邪魔をしないよう細部まで検討。見える金物は特注色で塗装し、森の風景に自然と馴染むよう仕上げました。「せっかく景色のいい場所なので、ちゃんと景色を見てもらえる空間にしたかったんです」



工事を終えて…

設計チームや関係者の皆さんが大切にされていた世界観を、どう形にできるか。今回のプロジェクトは、造園工事部としても新しい挑戦の多い現場でした。細部まで意匠にこだわりながら、安全性や耐久性も成立させる。その両立を意識して進めていきました。
完成後、実際にゆっくり過ごされている方の姿を見ると嬉しいですね。「家族を連れて来たい」と思える場所になりましたし、自分自身にとっても誇りに思える仕事になりました。



現場
だより

田植え体験



リニューアル整備を担当している「史跡池上曽根遺跡」で
小学生と一緒に田植え体験をしてきました!

大阪府和泉市と泉大津市に跨るように位置し、
今なお弥生時代の多くの遺構・遺物が眠る
「史跡池上曽根遺跡」。

令和11(2029)年のリニューアルオープンにむけ
整備が進む史跡公園の中で、弥生時代の稲作体験ができる
体験のひろばの整備工事を造園工事が担当しました。

新しくなった体験水田ではさっそく、
地元の小学生たちが米づくりのための田植えをおこない、
担当した社員も一緒に昔ながらの手植えを体験してきました!
秋の収穫が楽しみです。



阪神園芸株式会社

本 社 〒663-8165 兵庫県西宮市甲子園浦風町16番24号
TEL.0798-47-3538 FAX.0798-41-4116
URL <https://www.hanshinengei.co.jp/>

大 阪 支 店 〒567-0884 大阪府茨木市新庄町14番17号
TEL.072-630-0161 FAX.072-630-0171

東 京 支 店 〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目24番14号
TEL.03-6404-6236 FAX.03-5767-6593



阪神園芸

2026年7月発行